

## 第83回 通常総会 藏内会長挨拶

公益社団法人 日本獣医師会  
会 長 藏 内 勇 夫



第83回通常総会の開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

全国の地方会の代表者の皆様方には、ご多忙のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、公務ご多用にもかかわらず、多くのご来賓の皆様にご臨席をいただきました。日頃、われわれ日本獣医師会に対するご指導とともに、大変なご支援をいただいておりますことに改めてこの場をお借りし、感謝を申し上げます。

本日は、農林水産副大臣 山下雄平先生、自由民主党獣医師問題議員連盟幹事長・参議院議員 松山政司先生、松山先生には特に私と高市総理のパイプ役を務めていただいて、大変なご迷惑をおかけいたしております。公明党獣医師動物看護議員懇話会副会長・参議院議員 上田 勇先生、環境省自然環境局長 堀上 勝様、厚生労働省健康生活衛生局感染症対策部長 鷺見 学様、文部科学省大臣官房審議官 松浦重和様、さらに、関係団体から公益社団法人日本医師会会長 松本吉郎様、公益社団法人中央畜産会副会長 姫田 尚様、そのほか多数のご来賓にご出席をいただきました。また、多くの国会議員、関係省庁、団体の皆様方にもご出席を賜ることができました。重ねてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、去る4月21日から4日間、東京都千代田区にある東京国際フォーラムで開催いたしました第41回世界獣医師会大会に際しまして、ご臨席のご来賓をはじめ、地方獣医師会会員構成獣医師の多数の皆様にご支援、ご協力を賜り、成功裏に閉会することができました。誠にありがとうございました。

この大会で、私は世界獣医師会の会長に就任いたしました。今後、健康に留意し、しっかりとその職責を果たしていきたいと考えているところでございますので、変わらぬご支援を賜ることができますようお願い申し上げます。

開会式では、天皇陛下から、獣医師が幅広い分野で重要な役割を果たし、社会に貢献をしていることなどに触れていただき、われわれ獣医師に対する労いの言葉をいただきました。また、陛下はお言葉の中で、本大会のテーマであるワンヘルス実践の取組とともに、獣医師の果たす役割がより一層重要となると認識されている旨、述べられました。天皇陛下は皇后陛下、愛子内親王殿下とともに、開会式に続いて行われた喜田宏北海道大学教授の基調講演を大変興味深げに耳を傾けられており、そのお姿は夕刻のテレビニュースなどで大きく取り上げられ、わが国の獣医師の職務や獣医師会の活動、さらにその職責の重要性が国の内外へ広く周知されることにもなり、大変意義深い大会であったと多くの方から高い評価をいただきました。

大会期間中も世界各国から5,000人を超える獣医師、獣医療関係者が集い、大会のテーマであるワンヘルスを中心とした獣医学術の研究発表、各種のセッションが開かれ、各会議場において熱心な討議が行われました。そして、最終日には本大会の成果であるワンヘルス東京宣言2026が読み上げられ、大会は成功裏のうちに終了いたしました。

今後、私は世界獣医師会会長として、国内はもとより地球規模での広範な視点を持って、世界各国の獣医師及び獣医師会関係者と手を携え、さらなるワンヘルスの実践活動の推進に取り組むとともに、引き続き獣医師の地位向上、世界における獣医療界の発展に尽力いたします。本日ご参会の皆様方におかれましても、

ご支援をよろしくお願いをいたします。

日本獣医師会では本大会を契機にさらなるワンヘルスの取組の推進をはじめ、さまざまな事業に取り組んでいるところです。まず、狂犬病予防法に基づく自治体事務のDX化として、登録手数料の確実な徴収とともに、ワクチン接種情報も一体的に運用できる本会の犬の登録システムについては、引き続き本会と地方獣医師会が連携して、地元自治体へ丁寧な説明に努めるなど働きかけ、一つでも多くの自治体で活用されるよう尽力をしているところでございます。今後とも飼い主のニーズ、自治体の事務軽減に応えるとともに、地方獣医師会、会員構成獣医師にとっても有益な事業となるよう取り組んでまいります。

また、現在、動物診療施設における獣医師の確保については、採用のミスマッチや早期離職の増加等の事例が散見されており、このような現場における課題を解決し、地域における獣医療提供体制の維持を目的として、人材紹介の事業化を進めており、公益法人としての社会貢献を第一に、本事業の構築に努めているところです。

さらに、近年の犬の飼育数の低下と家族の一員である犬猫等とともに過ごす豊かな社会生活が失われかねない状況を踏まえ、ワンヘルスの理念の下、ペットとの暮らしが人々の心身の健康や地域社会へもたらす意義を改めて社会に示すこととしております。そして、その価値を広く共有することにより、わが国における健全な人と動物の共生社会の実現に資することを目的とするサンクス・バディ・プロジェクトについても積極的に取り組んでいるところです。

一方、産業動物、特に家畜の伝染病に目を向けますと、発生が8年を経過した豚熱は現在26都県で100以上の事例が発生し、いまだに散発しております。また、高病原性鳥インフルエンザは令和2年以降毎年発生し、昨シーズンは累計16都道府県、24例発生、約580万羽が殺処分されている状況です。さらにわが国では未発生であるアフリカ豚熱や、2018年に中国で発生して以来、アジア全域に感染拡大する一方、本年1月に韓国で発生した口蹄疫も世界各国で継続的に発生しています。

このような状況において、本会は本年1月に、家畜衛生等の分野に専門の知識を有する農場管理認定獣医師の第2回目の資格認定試験を実施し、新たに39名が認定獣医師となりました。今後、本認定獣医師を各農場の担当獣医師として配置されることを願うとともに、越境性の家畜伝染病に対する防疫対応をはじめ、飼養衛生管理、経営管理等、全般を管理する全国体制を構築し、わが国の安全な畜産物の安定供給に努めてまいりたいと考えております。また、獣医師と愛玩動物看護師によるチーム獣医療の推進、公務員獣医師及び産業動物獣医師の処遇改善と人材確保、アジア地域の獣医師の研修事業等を通じての国際貢献等、本会が取り組むべき課題は多くあります。

これらの諸課題につきましては、本会と地方獣医師会が一体となって解決に尽力していく必要があります。今後とも地方獣医師会、会員構成獣医師の皆様方のご理解とご協力につき、何とぞよろしくお願い申し上げます。

本総会においては、昨年度の事業報告及び決算、さらに、本年度の予算、事業計画、さらに役員の選任等の重要な議案を上程しております。本日の議論により、今後の日本獣医師会の活動を一層活発化し、意義ある取組としていただきたいと考えておりますので、ご出席の皆様方には忌憚のないご意見をいただきますよう、お願いを申し上げ、総会冒頭の挨拶といたします。